

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, May 30th, 1958, No. 315.

關西大學學報

昭和33年5月 第315号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十三年五月三十日発行（毎月一回三十日発行）
通卷三一五号



木立から望む（千里山学園）

關西大學學報局

關西大學

工学部規程

第四十七条 工学部に機械工学科・電気工学科・化学工学科、金属工学科を置く。

第四十八条 工学部に研究実験工場を附設する。研究実験工場の規定は別にこれを定める。

第四十九条 工学部の入学定員は機械工学科八〇名、電気工学科八〇名、化学工学科八〇名、金属工学科八〇名、計三二〇名とし、総定員は一二八〇名とする。

第五十条 各学科の修業年限は四ケ年とする。

第五十一条 工学部における授業科目は一般教育科目、外国語、体育、専門科目に分ち、専門科目を基礎科目専門科目に分ち別に定めるところに依り学生をして一三六単位以上を選択履修せしめる。

第五十二条 授業科目及び単位数は別表の通りである。

但し一週三時間の講義(二時間の予習を含む)十五週間を以って一単位とし、一週三時間の実験・実習・製図・実技・十五週間を以て一単位とする。

第五十三条 授業科目は四ケ年に配当してこれを授ける。

但し科目の中には年次によりこれを開講しない事がある。

第五十四条 科目の配当及び時間数は教授会においてこれを定める。工学部所属の学生であつて一般教育科目中人文科学・社会科学(日本国憲法(四)は必修)、自然科学(数学(四)、物理学(四)、化学(四)は必修)の各系列に互りそれぞれ三科目一三単位以上、計三六単位以上、外国語中、英語八単位、専門科目中必修に指定した単位(機械工学科及び電気工学科七二単位、化学工学科及び金属工学科七四単位)を含み、計一三二単位以上、これに体育講義二単位・実技二単位計四単位を合せ、計一三六単位以上の試験及び卒業論文に合格した者を以つて、工学部機械工学科、電気工学科、化学工学科及び金属工学科の学科課程を修了したものと認める。

工学部機械工学科の学科課程を修了した者と認めるべき者は専門科目中金属材料学(四)、工業力学(四)、熱力学(四)、流体力学(四)、工業数学(一)(四)、材料力学(一)(四)、電気工学概論(四)、機械工学実験(一)(四)、機械工学実験(二)(四)、機構学(一)、機械力学(一)、機

械工学実験(一)(四)、機構学(一)、機械力学(一)、機

工学部機械工学科授業科目及び単位表

計	一般教育科目		基礎科目	専門科目	
	外国語	体育		基礎科目	専門科目
計 四八	英語(一)二 英語(二)二 英語(三)二 英語(四)二 英語(一)二 英語(二)二 英語(三)二 英語(四)二	講義二 実技二	図学二 金属材料学四 工業力学四 熱力学四 流体力学四 工作実習二 工業数学(一)四 工業数学(二)四 材料力学(一)四 材料力学(二)四 電気工学概論四 化学工学概論四 経営工学概論四 電子工学概論四 統計工学概論四 自動制御概論二 特許法二 工業法規二	機械工学実験(一)四 機械工学実験(二)四 機構学二 機械力学二 機械設計法四 計測工学四 材料試験法二 製図(一)二 製図(二)四 工作機械法四 熱機関(一)四 熱機関(二)四 水力機械四 精密機器二 運搬機械二 航空工学概論二 冷凍工学概論二 繊維工学概論二 産業経済史二	
計 一六					
計 四					
計 六二					
計 五六					

		工学部電気工学科授業科目及び単位表	
計	四八	一般教育科目	
		外国語	体育
計	一六	各学科共通	
計	四	各学科共通	
計	五六	基礎科目	
		専門科目	専門科目
		各学科共通	各学科共通
		各学科共通	各学科共通
		図学二 金属材料学四 工業力学四 熱力学四 流体力学四 工作実習二 工業数学(一)四 工業数学(二)四 材料力学(一)四 材料力学(二)四 機械工学概論四 化学工学概論四 経営工学概論四 統計工学概論四 特許法二 工業法規二	製図(一)二 電磁気学四 電磁気計測四 電気工学(一)四 電気工学(二)四 実電気学(一)四 実電気学(二)四 電気回路四 送配電工学二 電気機器四 電気材料学二 電力工学四 電子工学四 通信工学四 自動制御四 電気応用工学四 照明工学概論二 真空管工学概論二 超高圧工学概論二 超高周波概論二 産業経済史二
計	六〇		

		工学部化学工学科授業科目及び単位表	
計	四八	一般教育科目	
		外国語	体育
計	一六	各学科共通	
計	四	各学科共通	
計	六二	基礎科目	
		専門科目	専門科目
		各学科共通	各学科共通
		各学科共通	各学科共通
		図学二 金属材料学四 工業力学四 熱力学四 流体力学四 工作実習二 工業数学(一)四 工業数学(二)四 材料力学(一)四 材料力学(二)四 機械工学概論四 電気工学概論四 経営工学概論四 電子工学概論四 統計工学概論四 自動制御概論二 特許法二 工業法規二	物理化学(一)四 物理化学(二)二 無機化学四 有機化学四 化学装置材料四 製図(一)二 化学工学実験(一)四 化学工学実験(二)四 化学工学(一)四 化学工学(二)四 化学の単位操作(一)四 化学の単位操作(二)四 機械の単位操作(一)四 化学工学(二)四 工業反応速度論(一)四 分析化学(一)四 分析化学(二)二 実験 有機工業化学(一)四 有機工業化学(二)四 無機工業化学(一)四 無機工業化学(二)四 産業経済史二
計	六四		

工学部金属工学科授業科目及び単位表

計	四八	計	一六	計	四	計	六六	計	五八
一般教育科目		外国語		体育		専門科目		専門科目	
各学科共通		各学科共通		各学科共通		基礎科目		専門科目	
						図学二 工業力学四 熱力学四 流体力学四 工作実習二 工業数学(一)四 工業数学(二)四 工業数学(三)四 材料力学(一)四 材料力学(二)四 材料力学(三)四 非鉄冶金学四 粉末冶金学(一)四 粉末冶金学(二)四 金属材料学(一)四 金属材料学(二)四 金属材料学(三)四 金属分析学(一)四 金属分析学(二)四 統計工学概論四 統計工学概論四 物理化学概論四 自動制御概論二 特許法二 工業法規二		金属工学実験(一)四 金属工学実験(二)四 金属組織学(一)四 金属組織学(二)四 鉄冶金学(一)四 鉄冶金学(二)四 鉄冶金学(三)四 粉末冶金学(一)四 粉末冶金学(二)四 金属材料学(一)四 金属材料学(二)四 金属材料学(三)四 金属分析学(一)四 金属分析学(二)四 統計工学概論四 統計工学概論四 物理化学概論四 材料試験法二 製図(一)二 製図(二)二 産業経済史二	

械設計法(四)、計測工学(四)、材料試験法(二)、製図(一)(二)、製図(三)(四)、工作機械及工作法(四)、熱機関(一)(四)、熱機関(二)(四)、水力機械(四)、計七二単位を履修しなければならない。

工学部電気工学科の学科課程を修了した者と認めるべき者は専門科目中、金属材料学(四)、工業力学(四)、工業数学(一)(四)、工業数学(二)(四)、統計工学概論(四)、製図(一)(二)、電磁気学(四)、電磁気計測(四)、電気工学実験(一)(四)、(電気工学実験(二)(四)、電気回路(四)、電気機器(四)、電気材料学(二)、電力工学(四)、電子工学(四)、通信工学(四)、電気応用工学(四)、計七二単位を履修しなければならない。

工学部化学工学科の学科課程を修了した者と認めるべき者は専門科目中、金属材料学(四)、工業力学(四)、熱力学(四)、工業数学(一)(四)、材料力学(四)、機械工学概論(四)、熱力学概論(四)、物理化学(一)(四)、物理化学(二)(四)、物理化学(三)(四)、物理化学(四)

工学部金属工学科の学科課程を修了した者と認めるべき者は専門科目中、工業力学(四)、工業数学(一)(四)、材料力学(一)(四)、機械工学概論(四)、物理化学(一)(四)、物理化学(二)(四)、物理化学(三)(四)、物理化学(四)

(二)、無機化学(四)、有機化学(四)、化学装置材料(四)、製図(一)(二)、化学工学実験(一)(四)、化学工学実験(二)(四)、化学工学(機械の単位操作)(一)(四)、化学工学(工業反応速度論)(三)(四)、分析化学及実験(一)(四)、分析化学及実験(二)(二)、計七四単位を履修しなければならない。

工学部金属工学科の学科課程を修了した者と認めるべき者は専門科目中、工業力学(四)、工業数学(一)(四)、材料力学(一)(四)、機械工学概論(四)、電気工学概論(四)、化学工学概論(四)、物理化学概論(四)、金属工学実験(一)(四)、金属工学実験(二)(四)、金属組織学(一)(四)、鉄冶金学(一)(四)、粉末冶金学(一)(四)、非鉄冶金学(四)、金属分析学(一)(四)、金属分析学(二)(二)、熔接工学概論(四)、材料試験法(二)、製図(一)(二)、計七四単位を履修しなければならない。

工学部金属工学科の学科課程を修了した者と認めるべき者は専門科目中、工業力学(四)、工業数学(一)(四)、材料力学(一)(四)、機械工学概論(四)、電気工学概論(四)、化学工学概論(四)、物理化学概論(四)、金属工学実験(一)(四)、金属工学実験(二)(四)、金属組織学(一)(四)、鉄冶金学(一)(四)、粉末冶金学(一)(四)、非鉄冶金学(四)、金属分析学(一)(四)、金属分析学(二)(二)、熔接工学概論(四)、材料試験法(二)、製図(一)(二)、計七四単位を履修しなければならない。

工学部金属工学科の学科課程を修了した者と認めるべき者は専門科目中、工業力学(四)、工業数学(一)(四)、材料力学(一)(四)、機械工学概論(四)、物理化学(一)(四)、物理化学(二)(四)、物理化学(三)(四)、物理化学(四)

關西大學工学部専門科目、担当者一覽

機械工学科

機械工学 35 年度開講
 機械工学 35 年度開講
 機械工学 35 年度開講
 講師 工博 津枝 正介
 助教 下間 頼一

電氣工学実験 (一)	照明工学概論	超高周波概論	真空管工学概論	超高圧工学概論	自動制御	電氣応用工学	通信工学	電子工学	送配電工学	電力工学	電氣機器	電氣回路	電磁気計測	電磁気学	機械工学実験 (一)	機械工学概論	航空工学概論	冷凍工学概論	製菓工学概論 (二)	運搬機械	工作機械及工作法	精密機器	水力機械	熱機関 (二)	熱機関 (一)	材料試験法	機械設計法	計測工学	
35	36	36	36	36	36	36	36	36	36	35	35	35	35	35	36	35	36	35	36	36	36	36	36	35	36	35	35		
教授 工博	講師 工博	講師 工博	教授 工博	教授 工博	講師 工博	助教 工博	教授 工博	助教 工博	教授 工博	教授 工博	教授 工博	講師 工博	助教 工博	講師 工博	教授 工博	講師 工博	講師 工博	教授 工博	助教 工博	講師 工博	助教 工博	助教 工博	専任講師	助教 工博	教授 工博	教授 工博	助教 工博	教授 理博	
七里 義雄外	阪口 忠雄	加藤 信義	高木 常造	泰 文治	近藤 佐一	片山 達哉	橋本 勝音	中村 享	高木 義一	太田 義雄	七里 常造	加藤 信義	三上 達三	加藤 信義	菅原 菅雄外	前田 春興外	藤野 清久	藤本 武助	柳場 重男	下間 頼一外	河本 実	田中 行雄	飯島喜太郎	今市憲作	勝田勝太郎	菅原菅雄	太田鶏一	下間頼一	田中晋輔

電氣工学科

粉末冶金学 (一)	金属材料学 (二)	金属材料学 (一)	非鉄冶金学 (二)	非鉄冶金学 (一)	铸造冶金学 (二)	铸造冶金学 (一)	鉄冶金学 (二)	鉄冶金学 (一)	金属組織学 (二)	金属組織学 (一)	有機工業化学 (二)	有機工業化学 (一)	無機工業化学 (二)	無機工業化学 (一)	分析化学及実験 (二)	分析化学及実験 (一)	化学工学実験 (二)	化学工学実験 (一)	化学工学 (工業反応速度論)	化学工学 (機械の単位操作)	化学工学 (化学の単位操作)	化学工学 (有機化学)	物理化学 (二)	物理化学 (一)	電気工学実験 (二)		
35	36	35	36	35	36	35	36	35	36	35	36	35	36	35	36	35	36	35	36	35	35	35	36	35	36		
教授 工博	教授 工博	教授 理博	講師 工博	助教 工博	専任講師	助教 工博	教授 工博	教授 工博	教授 理博	教授 工博	教授 工博	助教 工博	助教 工博	専任講師	専任講師	教授 工博	教授 工博	教授 工博	講師 工博	教授 工博	教授 工博	教授 工博	助教 工博	講師 理博	講師 理博	教授 工博	
榎葉 久吉	太田 鶏一	岩瀬 慶三	久島亥三雄	亀井 清	森田善一郎	尾崎 良平	沢村 宏	沢村 宏	岩瀬 慶三	田島 治	阿部 忍外	大岩 正芳外	西岡新太郎	塩川 二朗	川手 昭平外	川手 昭平	柳場 重男外	小川 雅弥外	阿部 忍	大竹 伝雄	柳場 重男	上山 惟恒	小川 雅弥	塩川 二朗	外山 修	外山 修	高木 享外

金属工学科

化学工学科

特許工業法	工業経済史	産業概論	統計学概論	経営学概論	自動制御概論	電子工学概論	金属工学概論	化学工学概論	電気工学概論	機械工学概論	製菓工学概論 (一)	製菓工学概論 (二)	製菓工学概論 (三)	製菓工学概論 (四)	工作学	流体力学	熱力学	工業力学	図学	材料力学 (一)	材料力学 (二)	工業数学 (一)	工業数学 (二)	工業数学 (三)	金属工学実験 (一)	金属工学実験 (二)	物理化学概論	材料試験法	熔接工学概論	冶金学	金属分析学 (一)	金属分析学 (二)	粉末冶金学 (一)	粉末冶金学 (二)	
36	36	35	35	35	36	35	34	34	34	34	35	35	35	35	34	34	34	34	33	35	34	35	34	36	35	36	36	36	36	36	35	35	36	36	
助教	助教	教授 経博	講師 工博	講師 工博	講師 工博	教授 工博	教授 理博	教授 工博	教授 工博	教授 工博	教授 工博	教授 工博	教授 工博	助教 工博	専任講師	助教 工博	助教 工博	教授 工博	助教 工博	教授 工博	教授 工博	助教 工博	教授 工博	教授 工博	教授 工博	教授 工博	教授 理博	教授 理博	教授 理博	教授 理博	助教 工博	助教 工博	教授 工博	教授 工博	
内田修	内田修	矢口孝次郎	西原宏	松井辰之助	近藤文治	高木享	岩瀬慶三	上山惟恒	泰常造	菅原菅雄	榎葉久吉	上山惟恒	橋本達哉	前田春興	田中行雄	今市憲作	勝田勝太郎	前田春興	下間頼一	前田春興	前田春興	小沼啓助	藤田新三郎	藤田新三郎	藤田新三郎	田中行雄	田中行雄	外山修	太田鶏一	橋本達哉	田島治外	田島治外	津田昌利	津田昌利	榎葉久吉

各科共通

学内報

千里山第一学舎研究室

新築地鎮祭

千里山第一学舎研究室（法学部、文学部）を第一学舎隣接敷地に新築することとなり、その地鎮祭が五月二十日（火）午前十時半より理事長、学長はじめ各役員、評議員、教職員等関係者多数列席のもとに、吹田市垂水神社神官により、厳かに挙行された。

関西大学経済・政治研究所

発 足

本学には研究機関として、従来関西大学人文科学研究所及び関西大学東西学術研究所が設置されているが、今度新たに関西大学経済・政治研究所を設立することとなり、二月一日の理事会で決定、四月一日付をもつて所長、幹事がそれぞれ左記の通り発令され、新年度より発足、その研究成果が期待されている。

なお、研究主題は、生産性研究、マーケティング、社会保障、圧力集団、マス・コミュニケーション等である。

所長 教授 井上吉次郎（文学部）
幹事 教授 森川 太郎（経済学部）
同 同 山崎 紀男（商学部）

同 助教 堀 堅士（法学部）
同 同 辻岡 美延（文学部）

杉原教授帰学

在外学術研究員として昨年四月渡欧した経済学部杉原四郎教授は、イギリスの諸大学で一ケ年の経済学研究を了り、四月二十九日羽田空港着、五月一日（木）「つばめ」号で無事帰学した。

池垣教授渡欧

法学部池垣定太郎教授は昭和三十三年度在外学術研究員として、五月二日（金）午後神戸港出帆大阪商船欧州航路スエズ丸にてイギリスに向つた。

なお、同教授は海商法研究及び海商事情調査のため、イギリスのロンドン大学はじめ、ドイツ、フランス、オランダ、スエーデン、アメリカの著名大学を訪問する予定。

中井教授渡米

文学部中井駿二教授は昭和三十三年度在外学術視察員として、四月二十九日「はと」号で大阪駅発、五月四日（日）羽田空港発日航機でアメリカに向つた。

なお、同教授は欧米諸国におけるマス・コミュニケーション研究機関施設の調査研究のため、南北アメリカ、西欧、北欧、東欧各国を視察する予定。

矢口、山崎両教授帰学

コロンビア大学の招聘により Mackin-

sey Lectures に出席のため渡米していた経済学部矢口孝次郎教授は五月二十九日（木）、商学部山崎紀男教授は同三十日（金）、それぞれ無事帰学した。

総務局長に

大江久五郎氏

本学総務局長に大江久五郎氏が就任、四月二十二日付をもつて任命された。

大江氏略歴

大正十五年関西大学専門

部法律学科卒、同年大阪府社会教育主事補、昭和十三年大阪府属、その間内務部、学務部勤務、同十八年地方事務官に任ぜられ大阪府内政部教学課勤務同廿二年泉南地方事務所長、翌年南河内地方事務所長、同廿四年文部事務官（浪速大学勤務）、同大学事務局次長兼会計課長、同三十年大阪府立大学に名称変更後も同職及職務に補命

就職講座開講

昭和三十三年度就職講座は左記要領で開講される。

- 一、資格 各学部三、四年次生にして、一般教育科目中の語学全科目の単位を取得せる者
- 二、期間 五月六日―七月十二日（休日を除き毎週四日）
- 三、時間 午後四時―六時（火金）午後五時―七時（水木）
- 四、場所 第二学舎一〇九教室（千里山）
- 五、科目及講師
小谷講師 時事英語二〇時、商業英語二〇時
岸本一郎講師 一般英語四〇時
- 六、修了証明書 出席日数を勘案して修了証書を授

与する。

英文タイプ講習会

昭和三十三年度第一回英文タイプ講習会を、左記要綱で実施。

- 一、資格 学部 年次不問
- 二、期間 四月二十六日―五月二十四日、九週間除休日
- 三、時間 月・水・金組、火・木・土組両組共A班四時半、B班五時半。A、B班は一週毎に、実施期間を交代する。
- 四、場所 第二学舎一〇八号室（千里山）
- 五、終了証書 出席技能の程度に応じ級別（A B C D E）の終了証書を授与する。

人事異動

昭和三十三年三月三十一日付

参事 桂 忠雄

昭和三十三年四月一日付

桂 忠雄

昭和三十三年四月二十二日付

大江久五郎

教授の諸活動

岩崎教授快癒

病氣のため京都大学病院にて静養加療中であった前学長岩崎卯一教授は、去る五月二十四日快癒退院した。

隠岐国分寺の蓮華舞を見る

高橋盛

過去四回の調査で隠岐の民俗についての現地調査は一応打切った訳であるが、祭礼は必ずしも夏休に行われるとは限らず、この蓮華舞の如きも最も注意すべき祭礼ではあるが、新学期が既に始まっている四月二十一日に行われた。強いて一週間の暇を請い、一方、京大大学院中国哲学専攻生で、先に宮内省の雅楽講習所をでて、専門的に雅楽を研究している水原清江君に同伴を請い、奉職先の東山の京都女子大学に出張届を出してもらつて、二人だけで十八日の出雲号に乗つた。あいにく天候は悪く、ほとんど曇天、雨天つずき、当日まで雨風にたたられ、戸外特設舞台は使用せず、本堂内で行つた。西郷町の高梨文太夫氏には特にお世話になり、本年は本祭の予定ではあつたが、和尚さんが京都の本山東寺に出張のため、祭も取りやめになりそうな所を、特に我々の為には本格的な祭を行う事にしてもらつた。当日迄に田中豊治氏(隠岐高校教頭)にお願して、隠岐支庁教育委員会のテープ・レコーダーを拝借し、藤田一枝氏には貴重な高田大明神祭礼記録(この祭礼記録の内容は国分寺の蓮華舞とはほぼ同じものを天保六年乙未之春八幡宮正神古木上総之亮源清綴が式の順序舞の手振等詳細に記録したもので、中に教番、国分寺にも絶えた舞がある。この中、高田明神で現在行われているものは獅子舞だけである)を拝借して数日ばかりで写し取り、都万の役所へ行き原本を一覧、水原

君が写真に収めた。その結果はまだ分らない。

二十日夜、隠岐新報社の高梨徳義さんの同行を請い、タクシーで乗りつけ、壇家総代一同に挨拶の後、録音にかつた。大太鼓、八寸位の銚鉢、雌竹で作つたお手製の横笛七、八本ではあるが、極めて巧みに奏して呉れた。

孝

祭の当日午後一時過ぎ、五箇村願満寺住職重植快真師等によつて、前三、光明真言、弘法大師御法語、敬讃文、廻向文、阿弥陀如来根本陀羅尼、仏讃等、真言の儀式を厳修され(録音迄、つゞいて、眠り仏(二童子が眠っているのを獅子がかみついて順次に起す)太平楽(四人の若い男による雅楽風な舞)麦焼き(百姓が田を耕し種まくしぐさ。道化味を帯びたもの、水原君によればこれにも雅楽の影響があると云う)山神貴徳(二人対になつてまう)龍王の舞(蘭陵王)仏舞(両腕を左右にひろげてつたつたまま極めてゆつくり舞う。珍しいもの)音楽やカルサン袴に古い田楽の香をのこし、いつの頃か、雅楽を取入れたものらしい。曲目や鳥冠等で分る。(時代は分らぬ。平安末期から徳川中期迄の間という位しか分らぬ)花咲家に、無名の農民の記したひらがなばかりで時々方言、あて字のある文政三年の舞の手振を記した一本がある。借覧を許され、徳義氏がライカが複写して下さつた。短日月で全く目のまわる様な忙しさではあつたが、予期以上の収獲を得、雨の中を出航、二時間延着の上、島大の諸先生に挨拶に行き、いろいろ手厚いおもてなしに預り、論集の打合せ等して引き上げた。(昭三三、四、二六記。教授、文学部)

(10頁より続く)

関西個人選手権	九月七日	西宮
国民体育大会	九月十四日	びわこ
全日本個人選手権	十月十一日	広島
全日本実業団	十月二十五日	逗子
第四回東西対抗	十月二十六日	西宮
フィン・スター選手権	十月下旬	"
関西学生新人戦	十一月九日	西宮
香港・マニラ遠征	十一月一日	西宮

二部

古典演劇部
当部では三月二十三日文楽座を鑑賞し、後「妹背山の見方」を主題に例会を開いた。

弁論部

弁論部の行事日程は左の通りになっている。
五月三日 第十回全関西高専優勝弁論大会
六月二十一日 全日弁主催 討論会(京都)

八月中旬 夏期遊説(中国地方)その他、北村杯、鳴堂杯、新鴻杯、世耕杯などの他校主催の優勝弁論大会に出場予定。

軟式野球部

本年度春期リーグ戦にそなえ、三月下旬から合同練習していたが、四月十三日から始まつた同リーグ戦で、第二戦の対近大戦で快勝した。

フエンスィング部

四月十五日、本学体育館で甲南大学と親善試合を行った。

応援団

三月七日から十一日間、金沢市深谷において冬期合宿を行った。

昭和三十三年卒業論文題名 (3)

文学部

明治、大正、昭和年代に於ける広告の変遷 吉原 克彦

広告 — 新聞広告とラジオ広告の概略 — 若林 曙

広告のもつ社会的利益と弊害について 和田 稔

広告の意義の歴史の変遷について 江島 一夫

広告の原稿について 河野 宏通

週間雑誌の解剖 小林 勝

広告の社会性とその倫理的根拠 小林 二郎

現代新聞広告の重要性 桜井 勉

現在社会の新聞広告と放送広告との相違及びその社会影響について 野村 広一

我国女性投稿欄の内容分析 南部 広

マス・コミ倫理とその影響、映画を通しての一考察 中村 忠法

広告のマス・コミユニケーションに対する作用 堀井 一男

東洋文科

儒教 今戸 章夫

魯迅の小説「彷徨と呐喊」

支那文学の思想 岡村 吉貞

支那文学の思想 北田 圭作

二部

英文学科

ヘミングウェイの人と作品について 秋永 治郎

ヘミングウェイと作品「武器よさらば」についての研究 朝田 勝己

「ウィングスマン夫人の扇」について 芦田 和

戯曲「ハムレット」に就いて 浅野 陽

ソローのウォールデンの森について 今井 和広

A・ハックスレーの文学作品における特性についての道遥 院去 孝義

「高慢と偏見」 井原 礼子

Dramatic Construction of George Bernard Shaw Seen rom his minor characters. 池田 和雄

ホーソン・ナサニエルとその文学 伊藤 長則

ワーズ・ワースと自然 栄羽 達

「マクベス」考 岡田 賢二

ローマン主義の復興とバイロンについて 岡部 忠彦

「ロオミオとジュリエット」劇についての研究 岡崎 清三

On "The Heart of the Matter" by Graham Greene. 岡本 元一

作品研究「ダーバヴィル家のテス」 奥地 秀明

ヘミングウェイと作品「老人と海」について 加藤 勲

ジョン・バンヤンと天路歷程 柏 光雄

老人と海 ヘミングウェイ 金田 昌介

スウィフト原作「ガリヴァー旅行記」について 原作者自体の性格から表現される作品並びに物語の構成、作品の分析 木原 隆

英語学論 小山 喬

ヘミングウェイの肯定的精神について（「誰がために鐘がなる」を中心として） 河野 明

マーケットウエインの作品と性格 佐々木 俊章

エミリ・ブロンテと作品「嵐ヶ丘」について 白井 昭蔵

Thomas Hardy and "The Return of the Native" 清家 浩

A study on D.H. Lawrence, a study in "Lady Chatterley's Lover," 高木 宏之

米文学史に於けるホイットマンについてホイットマンの性格、人格、作品等について 高松 法信

Lafayette Hearn のアメリカ時代の作品について——特に小説「チタ」及び「ローマ」を中心として—— 田中 千之

オスカーワイルドの二作品について 田辺 光一

シェイクスピアの「リア王」について 高木 伯史

"On study Oscar wilde as an artists" 竹歳 令

シェイクスピア作「ヴェニス商人」の喜劇性と道德律 武田 正夫

ゲーテの美術観と哲学 徳山 保

シエリと彼の詩について 土井久治郎

ヘミングウェイ作品「武器よさらば」より戦争の外的状況とチャザリンの死 中田 良長

ヘミングウェイと作品「老人と海」についての研究 中村 二郎

シェイクスピアの劇的描写の研究 仲 諄

The Study of S. Maughan (履修届なき為無効) 中村 文隆

アメリカ文芸思潮の特徴について 西田 栄

ディケンズ作品研究 西山 吉夫

W.S. モーム作品研究「人間の絆」 西尾 悟郎

A Study of Verbs in Blondie's English

トーマス・ハーディ作品研究

「ダーバヴィル家のテス」について

飛芸 道子

文学に於ける永続性

藤原 仁

ワーズワスの自然に於ける倫理性

藤原 久興

ローレンスと「死んだ男」

ローレンスの「死んだ男」の作品及びローレンスについて

丸岡 志朗

新興宗教と日本仏教の研究

宮崎 和義

ヘミングウェイの作品の特質について

三木 勝雄

D.H. ロレンス「死んだ男」をめぐって

横山 新

英文学の追求

力丸 周

サムセツト・モーム「人間の絆」について

渡辺 一郎

▼国文学科

志賀直哉「暗夜行路」考

井口 敬次

万葉の素材としての旅と自然

梅路 春枝

近松とその作品研究

内山 修造

西鶴の町人物に就いて

内堀 潔

田山花袋著「蒲団」をめぐって

上田 宣昭

蜻蛉日記作者の人間像

大和田シズ子

林芙美子論

織田 静江

小学校における文学教育の位置づけ

小説「黒潮」とその後の花

大崎 義男

山上憶良と「世間」について

大野 雄男

樋口一葉

小倉 博司

芭蕉と旅

岡田 誠

葉山嘉樹の文学

岡部 里生

高橋連齋の伝説歌について

川原 清治

島崎藤村「新生論」

鎌田 節夫

太宰治の文学

加藤 光信

死と論理の問題を中心にして

川端 義雄

阿仏尼について

岸本ヒロ子

宮沢賢治小論

金谷 松雄

枕草子校註私見

栗田 はる

子規の俳論に関する一考察

忠海 十一

有島武郎について

粉川 幸郎

「木朝二十不孝」について

古吟 善司

武者小路実篤文学の人間肯定とその思想について

里村 祐男

夏目漱石の文学作品に於ける「女性像」について

「草枕」「三四郎」

「虞美人草」の女性について

鮫島 義信

狂言に見られる待遇意識

漱石の描いた人間像の類型について

須佐美充男

中期作品を中心にして

田中伊佐夫

徳田秋声論

織田作之助の文体

「夫婦善哉」を中心にして

竹弘 勲

幸田露伴の「五重塔」について

棚上 文夫

若山牧水とその短歌について

柘植 善治

春雨物語と上田秋成

時 常吉

樋口一葉のえがく女性について

中原 淑子

近世江戸文学

特に戯作者とその作物について

長村 源起

近松の義理・人情について

西尾 晃一

横光利一論

西村 清

西鶴とその時代

野瀬 通雄

虞美人草論

鉢重 稲造

志賀直哉論

藤原 直哉

梶井基次郎の文学

本田 尚子

森鷗外のロマンチズム

松本 幸重

近松の研究

近松門左エ門作

「鏡の権三重帷子」について

三浦 健彦

▼哲学科

ドストエフスキの宗教観

林 信紀代

ウィリアム・セイヤムスに於けるプラグマチズムの真理観

橋本 竜徳

「夫婦善哉」を中心にして

橋本 竜徳

「草枕」「三四郎」

鮫島 義信

狂言に見られる待遇意識

「草枕」「三四郎」

「虞美人草」の女性について

鮫島 義信

狂言に見られる待遇意識

「草枕」「三四郎」

「虞美人草」の女性について

鮫島 義信

狂言に見られる待遇意識

「草枕」「三四郎」

「虞美人草」の女性について

鮫島 義信

狂言に見られる待遇意識

「草枕」「三四郎」

「虞美人草」の女性について

鮫島 義信

狂言に見られる待遇意識

「草枕」「三四郎」

「虞美人草」の女性について

鮫島 義信

狂言に見られる待遇意識

「草枕」「三四郎」

「虞美人草」の女性について

鮫島 義信

狂言に見られる待遇意識

「草枕」「三四郎」

「虞美人草」の女性について

鮫島 義信

▼仏文学科

スタンゲール「恋愛論」研究

永瀬 幸一

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗

シヨルジュ・シムノン小論

橋元 文朗



部

四年連続西日本学生レスリング

秋季リーグに優勝

レスリング部

三十二年度西日本レスリング秋季リーグ最終戦は昨年十一月二十一日、本学天六体育館で行われたが、本学は優勢であると予想されていた関学を接戦の末これを敗り、全日本学生王座決定戦への出場権を獲得した。

第七回全日本学生王座決定戦は昨年十一月三十日、東京青山レスリング会館で関東代表の中央大、西日本代表の本学との間で行われたが8-1で敗れた。

送球部

関西学生送球春季リーグ戦は五月十一日から二十五日まで行われ、関大は四勝

一敗で二位となった。

剣道部

第六回関西学生剣道選手権大会は、五月十八日王子体育館において参加三十校で行われた。

○個人戦

優勝 長谷川(関大)

二位 神田(関大)

○新人戦

優勝 川上(関大)

二位 林上(関大)

米式蹴球部

第七回対法政大定期戦(日大)五月四日

法政大 20 (7 0 6) 関大 13 (7 6 0)

対早大定期戦(関大)五月二十四日

早大 45 (13 13 7 12) 関大 20 (0 14 0 6)

ヨット部

本年度前期の行事日程左の通り。

(種目) (期日) (場所)

瀬戸内クルージング 四月二十九日 瀬戸内

国立七大学戦 五月中旬 西宮

関西学生選手権 六月二十八日 西宮

関西長距離レース 七月五、六日 西宮

関西インタークラブ 七月二十日 西宮

全日本学生選手権 七月二十六、二十七、二十八日 塩釜

日本外洋レース 七月二十九日 逗子

関西実業団 八月三日 西宮

関西高校選手権 八月十二日 西宮

全日本インタークラブ 八月二十四日 西宮

(7頁下段)

(11頁より続く)

協力を得てやつてゆきたい」と挨拶。議事に入り、会則案を審議検討のち承認決定し、新役員を指名発表、会務報告が行われ、本部から出席の榎本副会長、門上組織部長が挨拶と共に校友会の現状を報告した。議事を終了、学長の祝電披露後懇親会に移り、学歌を最後に斉唱して散会した。

当日決定役員

支部長 木下清一郎

副支部長 白井隆介、竹内勲、佐野登喜雄

幹事長 島津徳三

副幹事長 北里瑞賢、平井吉春

東京支部総会

東京支部では四月二十五日(金)総会を有楽町「そごう」で開催した。

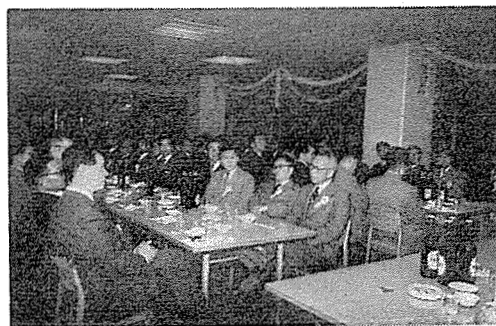
当日は母校から中谷敬寿教授、校友会から門上組織部長が出席、講演並に現況説明を行った。

会は香西副支部長、中山支部長の挨拶並びに岡野学長の祝辞代読があつて中谷教授の講演に耳を傾け、そのあと開宴、歓談の時を過ごし、午後九時散会した。

当日出席者

中谷敬寿、門上敬夫、平岡啓道、小野藤一、村井森五郎、田辺明四郎、浦田関太郎、深谷茂、今野勝久、浅井明、中山幸市、畑野二郎、橋本利八、酒井英雄、香西政一、山地利、野坂貞三、岡中茂、草部一雄、福部章、植田八郎、所剛夫、梶岡市、萩野勉、諏訪富三郎、井口一、渡田昇一、戸根泰雄、西尾友夫、阿部正寛、森田稔、吉田三七雄、桐山一雄、赤塔政夫、南出弘、井口卯平、弓削田義郎、甲斐竜夫、安達竹七、丸物彰、大先一成、友岡晴雄、秋元東洋男、狐塚正雄、安田義哲、片岡弘、有重栄、一山光男、吉川芳郎、村上誠一、前田秋雄、三枝義郎、寒川英希、中川賢、池上勇

藤沢清次、杉井輝成、伊藤孝行、樋川豊、中村簡吉、梅田茂、樋田定治、市辺浅次郎、坂本寿雄、神木彦次郎、中井達夫、西田健、吉岡郁夫、塩崎博



東京支部総会

徳島支部総会

徳島支部では四月二十七日(日)午後二時から徳島市東新町グリーン春秋苑で会員十五名の出席を得て総会を開催。

まず支部長の開会挨拶のあと母校から出席の矢野常務監事が母校の飛躍せる発展ぶりを報告、会員一同大いに感銘した。最後に本年度の役員改選を行い盛會裡に午後四時閉会した。

当日決定役員

支部長 中田豊雄、梅田鶴吉、満田清四郎
副支部長 三宅二郎
支部長 小寺善二郎、斎藤正美、竹内秀太郎
幹事 有本直弘、宮朝太郎、千卓信男、沢和一



校 友 バ ッ チ

校 友

校友会本部の動き

四月

今月は組織部が全般実施している支部設立運動が成果を取めたので、大阪市内支部長会議が開催された。未設区に設立を促すとともに運動を大阪府下各市郡部に及ぼす計画をたてたことがあげられる。また懸案の学部二部との終身会費手納に関する文書交換も終り、新入生ガイダンス時に大月会長より改めて趣旨説明並に依頼がなされた。また戦後卒業の元一部学友会執行部員の座談会が開かれ、その組織化が話題に上り、一方各地支部総会、同期会も行われた。

二日 財務部会・午後五時半、天六学舎
三日 組織部会・午後六時、天六学舎
八日 大阪市内区支部長会議・午後五時半、新大阪ホテル・大学側多数来賓として出席

九日 組織部、二部学友会と文書交換・正午、清交社
十日 入学式・千里山学舎・役員多数出席
十二、四日 新入生ガイダンス・大月会長趣旨説明のため出席

十五日 広報部、新聞「関大」第三十五号(四月号)発行
十九日 一部学友会執行部卒業校友座談会・午後五時、天六学舎
二十日 住吉支部総会・午前十一時、安立小学校講堂・榎本副会長、門上組織部長出席
二十二日 広報部会・午後六時、天六学舎
二十五日 東京支部総会・中谷敬寿教授門上組織部長出席
二十六日 旭支部総会・午後六時、喜楽別館・岡野学長、飯田、松原両教授、矢野常務監事、阿部評議員会議長、榎本、長柄両副会長出席
二十七日 徳島支部総会・矢野常務監事出席
二十八日 広報部、経済政治研究所長対談・午後三時、毎日新聞社
三十日 広報部、学長学部部長座談会・午後五時、天六学舎

大阪市内支部長会議

組織部では四月八日(火)午後五時から新大阪ホテルで、大学来賓多数の出席を得て開催した。

当日はまず門上組織部長が大阪市内支部結成運動の経過を総括的に報告、支部結成への尽力に対して謝意を表した。門上氏司会、榎本副会長開会挨拶のあと、大月会長の挨拶があった。来賓白川理事長は「大阪市内に支部を結成すると云う困難な仕事をここまで推進して下され、学校のためだけ役立つているかと思

うとうれしい。今後も益々組織を強化し母校のため協力願いたい」と語った。つ



支部長会議で食事を共に歓談する各氏

づき岡野学長も「皆様のお力を借りて大学の発展に尽したい」とのべた。

議事に入り支部運営、会費納入問題、関大会館建設問題等諸点につき質疑応答が行われたのち、晩食を共にしつつ、支部運営につき種々意見を交換し、午後九時閉会した。

当日出席者

来賓

- 白川理事長、岡野学長、久井専務理事、矢野常務監事、阿部評議員会議長、大島同副議長、壺井文学部長、田中工学部長
- 校友会副 大月会長、榎本、長柄両副会長、寒川総務、村上専業、門上組織各部長
- 支部長 十八区から出席

二部学友会と文書交換

二部新入生から終身会費の予納を受ける問題について、組織部では一部と併行して二部学友会と懇談を重ねた末、四月九日(水)正午から「清交社」で相方関係者が出席、次の文書に調印交換した。

新入生よりの校友会終身会費徴収に関する件

貴会が新入生より終身会費を徴収されるのは現段階においては時期尚早であると考えます。しかし、もし徴収されるならばあくまでも任意加入としなお附帯事項として左の事項を要請します。

一、会費の徴収は会計窓口ではなく、校友会事務局にて行う。一、定期的に二者懇談会をもち、種々の問題はその席上にて討議する。一、近時年度の卒業生の代議員推薦の際は学友会の意向を尊重する。

昭和三十三年四月九日

以上

関西大学校友会

関西大学二部学友会

関西大学二部学友会からの「新入生よりの校友会終身会費徴収に関する件」についての三項目の要請を本会は尊重いたします。

昭和三十三年四月九日

以上

関西大学二部学友会

住吉支部総会

住吉支部では四月二十日(日)午前十一時から区内安立小学校講堂で第三回総会を開催。

当日は竹内勲氏が司会、前支部長真鍋竹治郎氏の挨拶があったのち、支部長木下清一郎氏が「母校を愛する一片の熱意から支部長をおうけた。どうか皆様の

(10頁へ続)

關西大學七十年史

A5判 本文 七〇〇頁 特製上質紙使用

資料編 一五四頁 布クロス美装

口絵 五七頁 函入

内容目次

- 第一章 関西法律学校の創業
 - 第二章 河内町興正寺時代
 - 第三章 江戸堀時代
 - 第四章 福島時代
 - 第五章 福島、千里山時代
 - 第六章 千里山及天六時代
 - 第七章 新制大学の時代
- 資料編 (関西大学七十年史年表その他)

刊行 關西大學

「關西大學七十年史」は、関西大学創立七十周年記念事業の一つとして企画されて以来、修史に、編集に、遺憾なきを期して着々進められていたが、この程完成をみましたことは御同慶に堪えません。本年史御希望の方には実費金壹千五百円(送料共)にて御頒布いたしますから何卒、大学出版部まで御申込み下さる様お願いします。

刊行取扱 關西大學出版部

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十三年五月三十日発行(毎月一回三十日発行)

關西大學學報 第三二五号 五月号

關西大學法學會編著

岩崎教授在職三十五年記念論文集

A5判 四六四頁
上製 布クロス函入
普製 フランス綴
(論文 四三九頁)
(年譜及目録 二五頁)

内容目次

- ヘーゲル・文化國家序説(池田榮) 政治学史の構成について(原英次) 政治社会学の構成について(上林良一) 法の一般原則と國際法の淵源(川上敬逸) 國民主權の意味(渡辺宗太郎) 地方自治のあり方について(中谷敬孝) インド憲法の特質(松田登) 工業所有權の経緯について(内田修) 日唐軍防令の比較研究(石尾芳久) 承継的従犯について(植田重正) 刑法における行為能力と責任能力(中義勝) 古代ローマにおける自力救済制限の崩壊(明石三郎) ル・プレーの相続制度論(木村健助) ドイツ遺留分法の史的素描(福島四郎) 外國離婚判決の承認に関する英國國際私法規則(本浪章市) 商法の対象と商行為の実体(岩本慈)

刊行 關西大學法學會
刊行取扱 關西大學出版部

貨幣資本論

元關西大學學長 正井敬次著 B6判 二七五頁
現同名著教授、経博 フランス綴 定価二五〇円

貨幣及び貨幣資本の性質を知ることが、資本主義経済の実体を理解するため必要である、という著者の思想に基いて、多角的に貨幣資本の諸問題を追求された力作である

刊行及発売 關西大學出版部

大阪市大淀区長柄中通二丁目

編集兼 久井忠雄 発行所 關西大學出版部

電話堀川(35)二〇七二番
振替九阪二六七七二番

印刷所 株式会社 ナニワ印刷所
電話(35)七二七一